

9月1日は「防災の日」

～日ごろの防災対策・防災カレンダーの活用を～

9月1日は、「防災の日」です。これは、1923年(大正12年)に関東大震災が発生した日であるとともに、国民一人一人が台風、高潮、津波、地震などの災害に対する心構えを育成するために制定されました。

自分で行う災害への備え

◆ ハザードマップ(被災想定区域・避難場所や経路)の確認

家族全員で話し合い、安否の確認方法や別々の場所にいる際の集合場所・避難場所などは共有しておきましょう

◆ 非常用持ち出し袋の用意

(例)飲料水、食料品、常備薬、マスク、懐中電灯、携帯用ラジオなど
避難時は、持ち物を最小限にして、両手が使えるようにしましょう

◆ 室内での安全対策

地震に備え、転倒のおそれがある家具は固定しておきましょう

防災意識の向上 ～ 沖縄防災カレンダー ～

普段の生活で、防災の知識に触れる機会が増えることで自然に防災への知識や意識を向上させてもらうことを目的とし、毎年沖縄気象台で「沖縄防災カレンダー」を作成しています。自宅の普段目にするところや学校・公民館など多くの人が目にするところに掛けていただくと効果的です。

(URL) <https://www.jma-net.go.jp/okinawa/katsuyou/>

～自然災害から身を守るために日頃から備えよう～

★ 沖縄防災カレンダー ★
2020年(令和2年)子(ね)

9月
長月(ながつき) SEPTEMBER

台風接近時の高潮と高波
台風が接近すると、「吸い上げ効果」や「吹き寄せ効果」に加えて、うねりを伴った高波によって、普段は波が来ないところまで海水が押し寄せ、被害が拡大することがあります。
10月の「うねり」も見てください。

干潮の時間帯も警戒
高潮が高潮の時間帯と重なると、潮位がいっそう上昇して大きな災害が発生しやすくなります。ただし、台風が干潮の時間帯に来襲する場合でも決して安心できません。

吸い上げ効果
台風や低気圧の中心では気圧が周辺より低いため、中心付近の空気が海水を吸い上げるように作用する結果、海面が上昇します。

吹き寄せ効果
台風や低気圧に伴う強い風が沖から海岸に向かって吹くと、海水は海岸に吹き寄せられ、海岸付近の海面が上昇します。

干潮の時間帯にもっとも潮位が上昇
1998年台風第10号が通過した時の大阪での潮位の変化

気圧が1ヘクトパスカル下がると、海面は約1センチメートル高くなります。

風が、海水を沖合から海岸へ吹き寄せる
暴風
遠浅の海や、風が吹いてくる方向に開いた湾の場合、地形が海面上昇を助長させるように働き、特に潮位が高くなります。

防災気象情報は、テレビ・ラジオ・またはホームページから 石垣島地方気象台はこちらから

石垣島地方気象台ホームページ <https://www.jma-net.go.jp/ishigaki/>

※ ホームページは、スマートフォン対応済みです。

お問い合わせ先：石垣島地方気象台 電話番号：0980-82-2159



気象庁マスコットはれるん